

初任者用実践的指導力向上ハンドブックと 指導教員用初任者支援ハンドブックの開発と運用 (1)

— 学び続ける教員の基礎・基盤の構築を目指して —

鈴木由美子・米沢 崇・中井 悠加・大里 剛・西本 正頼
佐々木哲夫・幸坂健太郎*・久保 研二**・宮木 秀雄***

(2015年12月7日受理)

Development and Operation of the Handbooks for Novice Teachers and Mentors (I): Towards Constructing Foundation and Basis of Teachers as Continuous Learners

Yumiko SUZUKI, Takashi YONEZAWA, Yuka NAKAI, Tsuyoshi OSATO, Masayori NISHIMOTO,
Tetsuo SASAKI, Kentaro KOSAKA, Kenji KUBO and Hideo MIYAKI

Abstract. In this study, we developed *Handbook for improving the practical teaching competencies* for novice teachers and *Handbook for supporting Novices* for mentors and actually got them used by those teachers.

We interviewed three pairs of novice and mentor, obtained feedbacks on their contents & usability and analyzed them. As a result of this research, we reached following three conclusions: 1) Handbook for novice teachers helped in organization and accumulation of the documents of novice teachers training; 2) Handbook for mentors are contributory for mentors to support and to advise novices by offering useful knowledge and so on; 3) *Standard* can be an index of lesson observation and analyzation for novices as well as a tool promoting their reflections. Furthermore, it also works as a medium connecting novices and mentors.

We plan to keep on considering the valid ways to utilize these Handbooks.

I 問題と目的

2012年8月の中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」では、「教職生活全体を通じて、実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教員が探究力を持ち、学び続ける存在(p.2)」として「学び続ける教員像」の確立が要請されている。さらにその「学び続ける教員」を支援するため、大学の知を活用した現職研修の充実を図る仕組みを構築することなどが提言されている。また、ベテラン教員の大量退職による新規教員採用者数の増加に伴い、初任者の資質能力を初任者研修(教育センター等での校外研修や初

任者所属校での校内研修)によって育成していくことが従来以上に求められている。

これらの動向に鑑み、多くの教育委員会・学校・大学が協力して初任者研修の改善・充実に取り組んでいる。例えば、千葉大学(2014)の「初任者・ミドルリーダー支援による循環型・発展型プログラム(リンクプログラム)の開発」、信州大学(2014)の「教師としてのキャリアデザイン設計を意識した課題探求型初任者研修プログラム」、和歌山大学(2014)の「3つのコラボによる初任者研修支援プログラムの開発」などがある。

こうした中、広島大学では、平成25年度-平成26年度の期間で、独立行政法人教員研修センターの大学委託事業の採択を受けて、広島県教育

*北海道教育大学, **島根大学, ***山口学芸大学

委員会と連携・協働し、学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発に取り組んできた（広島大学，2015）。その取組のひとつとして、校外研修と校内研修を接続し初任者の実践的指導力を向上させるため、初任者用「実践的指導力向上ハンドブック」及び指導教員が初任者の指導を行うにあたって有用な指導教員用「初任者支援ハンドブック」の開発に取り組んだ。これらの活用を通して、初任者の実践的指導力の向上を目指している。

これらのハンドブックを、「学び続ける教員」を育成するための持続可能なツールとして運用するためには、それを実際にどのように使用しどのように感じているのかという初任者・指導教員からの声に真摯に耳を傾けることが肝要である。また、こうした声に応じた内容の改善及び効果的な使用方法を試み続ける必要がある。それは同時に、いかに「学び続ける教員」としての基礎・基盤を初任者に築いていくかという初任者研修のあり方の発展と連動し、我が国の教員の資質能力を向上させる礎としての役割を模索する試みとも捉えることができる。

そこで本稿ではまず、開発した初任者用「実践的指導力向上ハンドブック」及び指導教員用「初任者支援ハンドブック」の内容や活用による成果について報告する。さらに使用者の声を分析することで、各ハンドブックの効果的な使用方法を確立するための基礎的知見を得ることを目的とする。

II ハンドブックの開発経緯

まず、初任者用・指導教員用ハンドブックの開発経緯について説明する。

先述した教員研修センターの事業では、図1に示すような組織体制を構築し、事業の推進に努めた。その内、ハンドブックの開発は、三者ワーキングが中心となって行った。三者ワーキングは、大学教員2名（実務家教員1名含む）、広島県教育委員会管理主事1名、広島県立教育センター指導主事1名で構成され、初任者用・指導教員用ハンドブック及びスタンダード・ルーブリック、初任者研修マップの作成に関わる実務者レベルでの作業を行った。

以下に、平成26年度の三者ワーキングの概要について記す。

H26.2.27（1回目）：初任者用・指導教員用ハンドブックのコンセプトに関して、実務者レベルで協議した。

H26.5.9（2回目）：初任者用・指導教員用ハンドブックの具体的な内容に関して、実務者レベルで協議した。

H26.9.29（3回目）：初任者用・指導教員用ハンドブックの草稿を提案し、具体的な記述に関して、実務者レベルで協議した。

H26.10.24（4回目）：初任者用・指導教員用ハンドブックの修正稿をもとに、内容・記述に関して、実務者レベルで協議した。

H26.11.14（5回目）：初任者用・指導教員用ハンドブックの内容・記述の最終稿に関して、実務者レベルで協議した。

以上のように三者ワーキングを設置したことで、実務者レベルで三者が顔と顔を付き合わせて、ハンドブックの内容等について議論し、大学の専門的な視点と教育委員会や教育センターの学校現場の視点を統合させることができたと考えられる。

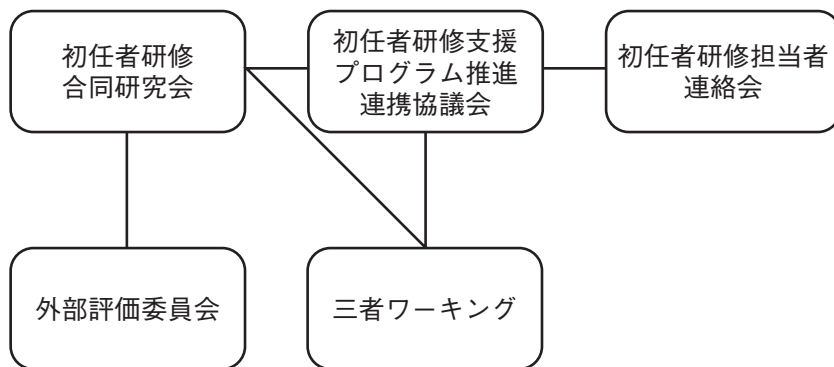


図1 本事業の組織体制図

Ⅲ. 初任者用ハンドブック

1. 初任者用ハンドブックの概要

初任者用「実践的指導力向上ハンドブック」は、初任者の実践的指導力の向上を目指しており、次のような内容で構成されている。

- ①授業力スタンダードと初任者研修マップ：自分自身の授業力の到達度を確認しよう！
- ②初任者研修の手引：初任者研修のスケジュールを確認しよう！
- ③研修内容振り返りシート：1年間の初任者研修で学んだことを整理しよう！
- ④授業映像等(DVD)：映像で振り返ろう！

以下、各項目についてひとつずつ詳述する。

(1) 授業力スタンダードと初任者研修マップ

授業づくりに関する基礎的な知識・技能を身に付けるための「授業力スタンダード・ループリック」を用いて、初任者が自分自身の授業力の到達度を確認できるようになっている。また、「初任者研修マップ」も参照し、受講する研修内容が授業力のどの領域と関連が深いのか受講前に確認し、自身の課題の明確化や意欲の喚起に活用できるようになっている。

これらの開発・運用を通じて、初任者の自己評価による自己省察の促進及び初任者研修支援プログラ

ムのアセスメントに利用することを目指している。なお、授業力スタンダード・ループリックと初任者研修マップの開発の詳細については後述する。

(2) 初任者研修の手引

初任者に配布される「初任者研修の手引」等を挟み、初任者研修の年間スケジュールを確認できるようになっている。

(3) 研修内容振り返りシート

各学期始めにおいて自身の授業力向上を目指した目標を書き、その学期末には自身で立てた目標を振り返ることができる「学期ごとの振り返り」シートが設けられている。さらに、初任者研修の資料も学期ごとに蓄積できるようになっている。

(4) 授業映像等(DVD)

初任者研修における模擬授業の録画映像等をDVD等に記録し、付属のポケットに蓄積できるようになっている。また、自身の所属校で撮影した授業の映像等があれば、それも蓄積できるようになっている。

図2及び図3のように、本ハンドブックは初任者が初任者研修で学んだことを蓄積し、それらを振り返ることで、自身の成長を確認でき、教職生活の2年目や3年目、それ以降の教育実践に活かしていくことができるポートフォリオの要素を含めている。このハンドブックを活用することで、初任者は広島県立教育センター等で行われる初任

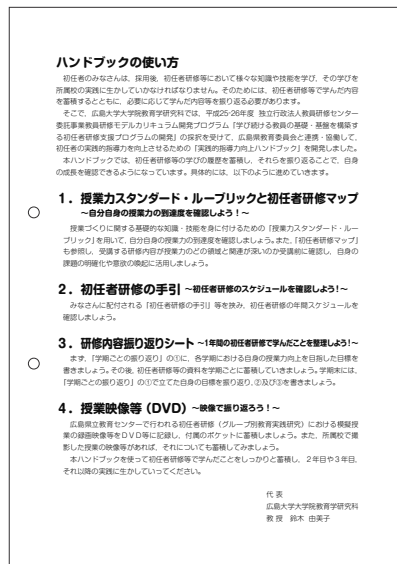


図2 実践的指導力向上ハンドブック①

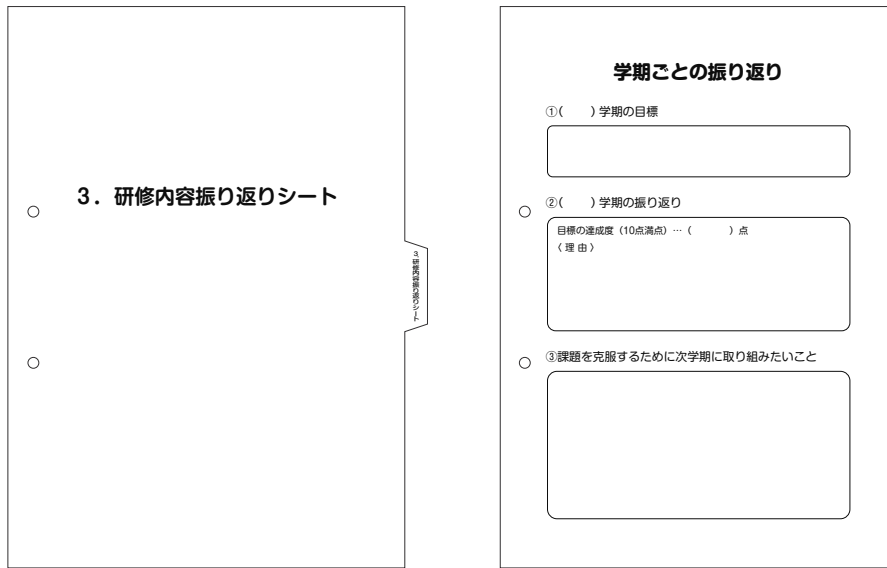


図3 実践的指導力向上ハンドブック②

者研修での学びを振り返り、日々の教育実践に役立てることのできる情報を得ることを目指している。また、このハンドブックは、初任者が自身の学びを所属校の指導教員と共有すること、すなわち、校外研修と校内研修の接続にも活用できることを期待している。なお、本ハンドブックは、平成26・27年度の初任者研修にて配付・運用している。

2. 授業力スタンダード・ルーブリックの概要

「学び続ける教員」を目指すためには、新任期の教員として身に付けるべき資質能力(到達目標)を明確化し、初任者自身が目指すべき教員像のイメージをもって、自らの資質能力の向上に取り組む必要がある。先駆的な取組として、高知県教育センター(2014a, 2014b)では、教員がゴールイメージをもって自らの資質・指導力の向上に取り組むことができるよう、「高知県の教員スタンダード」を作成している。

そこで、初任者が採用後から3年終了まで、いわゆる「新任期」で身に付けるべき授業力の指標として、「授業力スタンダード・ルーブリック」の作成に取り組んだ。具体的には、大学(研究)の知見を生かしながら、教育委員会と教育センターとの協働を通じて、初任者の授業力を構成する領域として、「学習規律」、「実態の把握」、「教

材研究」、「授業の分析・評価」、「学習指導案」、「発問」、「板書」、「机間指導」の8つの領域ごとに、3段階の到達レベルを設けた(図4)。

例えば、「C 教材研究」の領域では、「第1段階: 学習指導要領に準拠し、単元(題材)についての指導内容や指導方法を理解している。」「第2段階: 学習指導要領を踏まえ、単元や本時の目標・目標に応じた評価規準を設定することができる。」「第3段階: 単元や本時の目標を達成するために具体的な指導の手立てを考えることができる。」の3段階となっている。

また、「F 発問」の領域では、「第1段階: 明確な発問となるよう、本時の発問を計画することができる。」「第2段階: 児童が捉えやすいように、簡潔・具体的な発問をすることができる。」「第3段階: 実際の授業の発問を振り返り、改善することができる。」の3段階となっている。

このように、第1段階が計画(Plan)、第2段階が実施(Do)、第3段階が評価・改善(Check, Action)と、各領域における各段階のレベルをそろえ、初任者がPDCAサイクルを循環し、自身の成長を振り返ることができるように意図している。このスタンダード・ルーブリックの活用方法例としては、以下のような手順を想定している。

①「授業力スタンダード・ルーブリック」の各

授業づくりに関する基礎的な知識・技能を身に付けるための授業カスタンダード・ルーブリック

領域	キャリアステージ	新任期					
		第1段階	チェック欄	第2段階	チェック欄	第3段階	チェック欄
授業力	A 学習規律	【設定】 学校・学年としての指導内容や児童の発達段階を踏まえ、学習規律を設定することができる。 →A2、A3ポイント(2)・留意点2つ目	初任者 指導教員	【共有】 学習規律を具体化させ、児童に共有させることができる。 →A3ポイント(1)～(3)・留意点3つ目	初任者 指導教員	【定着】 学習規律を踏まえた児童への評価や児童自身の振り返りを通して、児童に学習規律を定着させている。 →A3ポイント(1)～(3)・留意点4つ目	初任者 指導教員
		B 実態の把握	【現状の把握】 記録や調査に基づき、児童の現在の状況を把握することができる。 →B2	初任者 指導教員	【変容の把握】 児童の過去の状況や多様な視点から児童の実態や変容を把握することができる。 →B2、B3ポイント(1)(2)・留意点3つ目	初任者 指導教員	【課題の明確化】 児童の現在の状況やこれまでの変容を踏まえ、課題を明確にし、具体的に指導を行うことができる。 →B3ポイント(3)・留意点6つ目
	C 教材研究		【理解】 学習指導要領に準拠し、単元(題材)についての指導内容や指導方法を理解している。 →C2	初任者 指導教員	【目標と評価】 学習指導要領を踏まえ、単元や本時の目標・目標に応じた評価規程を設定することができる。 →C2、C3ポイント(1)	初任者 指導教員	【指導の手立て】 単元や本時の目標を達成するために具体的な指導の手立てを考えることができる。 →C2、C3ポイント(3)
		D 授業の分析・評価	【計画】 本時の目標・めざす児童像と、目標にせまる手立てを具体的に計画することができる。 →D2、D3ポイント(1)(2)・留意点1つ目	初任者 指導教員	【実践】 授業記録や資料を収集し評価することができる。 →D2、D3留意点2つ目	初任者 指導教員	【改善】 収集した資料を使って本時の目標の達成度を検討し、授業を分析・改善することができる。 →D2、D3留意点4つ目
	E 学習指導案		【理解】 学習指導案の意義や書き方を理解している。 →E1、E2	初任者 指導教員	【作成・実施】 単元の目標・児童の実態・評価規程・指導の手立て等を反映した学習指導案を作成し、授業を行うことができる。 →E3ポイント(1)(2)・留意点4つ目	初任者 指導教員	【改善】 授業の分析・評価を基に、学習指導案を改善することができる。 →E3ポイント(3)
		F 発問	【計画】 明確な発問となるよう、本時の発問を計画することができる。 →F2、F3ポイント(1)	初任者 指導教員	【実践】 児童が捉えやすいように、簡潔・具体的な発問をすることができる。 →F2、F3ポイント(2)	初任者 指導教員	【改善】 実際の授業の発問を振り返り、改善することができる。 →F2、F3ポイント(3)・留意点4つ目
	G 板書		【計画】 1時間の授業内容を踏まえた板書計画を立てることができる。 →G2、G3留意点1つ目	初任者 指導教員	【実践】 板書計画や児童の理解・思考を踏まえ、1時間の授業を通して実際に板書することができる。 →G2、G3ポイント(2)・留意点2つ目	初任者 指導教員	【改善】 記録をもとに自分の板書を省察し、自分の板書の改善点を明確にすることができる。 →G3留意点3つ目と4つ目
		H 机間指導	【計画】 机間指導の目的を明確にし、机間指導の内容・タイミング・順序等を計画することができる。 →H2、H3ポイント(1)～(4)・留意点1つ目と2つ目	初任者 指導教員	【実践】 児童や学級の状況を踏まえ、計画的に机間指導を行うことができる。 →H2、H3留意点3つ目	初任者 指導教員	【改善】 机間指導で把握した情報を基に、その後の授業展開につなげることができる。 →H2、H3留意点4つ目

○初任者の方へ

初任者のみなさんが自身の授業力を向上させるために、次のステップで「授業カスタンダード・ルーブリック」を活用してみましょう。

◇ [授業カスタンダード・ルーブリック]の各領域の内容を確認し、1年後の成長した自分の姿をイメージしましょう。

◇ ◇でイメージした1年後の成長した自分の姿に近付けるよう、初任者研修等において様々な知識や技能を学び、所属校での教育実践を積み重ねていきましょう。

◇ 学期ごとに、自身の教育実践を振り返り、各領域においてどの段階まで到達できたのか自己チェックし、到達した段階の「初任者」のチェック欄に○印を記入しましょう。その際、拠点校あるいは所属校の指導教員の先生にも、あなたの到達段階をチェック（「指導教員」のチェック欄に○印を記入）していただき、一緒に振り返りを行いましょ。アドバイスを受けることで、より効果的な振り返りを行うことができます。

◇ 振り返りを通じて得られた成果と課題を、次年度の教育実践や今後の自身の成長につなげましょう。

○指導教員の方へ

各段階・領域に「→」で示したアルファベットと数字は、当該段階・領域と対応する記述が、同じく本事業の成果物である「指導教員用 初任者支援ハンドブック」内のどこにあるかを示しています。

初任者への指導・助言の際に役立ててください。

平成25-26年度 独立行政法人教員研修センター委託事業教員研修モデルカリキュラム開発プログラム「学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発」成果物

授業づくりに関する基礎的な知識・技能を身に付けるための初任者研修マップ(平成27年度版)

実施回	実施主体	研修の内容	授業力の領域							
			A 学習規律	B 実態の把握	C 教材研究	D 授業の分析・評価	E 学習指導案	F 発問	G 板書	H 机間指導
2	事務所	授業研究①			●	●	●			
		学級、授業における児童生徒との関わり方	●	●						●
3	センター	学習指導の基礎技術(発問や板書の計画、教材研究、指導と評価)			●			●	●	
		生徒指導の在り方	●	●		●				
5	事務所	授業観察の視点	●	●				●	●	●
		授業研究②(示範授業)	●	●		●		●	●	●
6	センター	心に響く道徳教育の進め方			●	●	●	●	●	
		特別活動の在り方・進め方		●	●					
		総合的な学習の時間の指導と評価		●	●	●				
		グループ別教育実践研究①	●	●	●	●	●	●	●	●
7	センター	実験・実習・実技を伴う教科の指導の実態①			●	●				
		学ぶ意欲を高める国語科の授業			●	●				
		実験・実習・実技を伴う教科の指導の実態②			●	●				
10	センター	体育科指導の視点と方法			●	●				
		実験・実習・実技を伴う教科の指導の実態(体育科)			●	●				
		児童の問題行動への理解と対応演習(※保護者との連携を含む。)		●						
		実践的授業研究の進め方		●		●	●	●	●	
11	センター	特別支援教育の進め方	●	●	●	●			●	●
		児童理解の進め方と教育相談演習		●						
		ネットワーク社会における情報モラル		●						
		グループ別教育実践研究②	●	●	●	●	●	●	●	●
12	センター	実験・実習・実技を伴う教科の指導の実態③			●	●				
		学ぶ意欲を高める算数科の授業			●	●				
		実験・実習・実技を伴う教科の指導の実態④			●	●				
13	事務所	授業研究③(訪問指導)	●	●	●	●	●	●	●	
15	センター	実験・実習・実技を伴う教科の指導の実態⑤			●	●				
		学ぶ意欲を高める社会科の授業			●	●				
		実験・実習・実技を伴う教科の指導の実態⑥			●	●				
16	事務所	授業研究④(授業参観 ※10年経験者研修)	●	●		●		●	●	
17	事務所	他校種授業参観 ※中学校訪問	●	●			●		●	
18	センター	ESDの進め方			●					
		外国語活動の進め方			●	●		●		
		グループ別教育実践研究③	●	●	●	●	●	●	●	●
19	事務所	授業研究⑤	●	●		●		●	●	
20	センター	小学校におけるキャリア教育の視点と方法			●					
		グループ別教育実践研究④	●	●	●	●	●	●	●	●

※「実施主体」欄については、教職員課を「教職員課」、教育センターを「センター」、教育事務所(支所)を「事務所」と表記している。

図5 初任者研修マップ

領域の内容を確認し、1年後の成長した自分の姿をイメージする。

- ②イメージした1年後の成長した自分の姿に近づけるよう、初任者研修等において様々な知識や技能を学び、所属校での教育実践を積み重ねていく。
- ③学期ごとに、自身の教育実践を振り返り、各領域においてどの段階まで到達できたのか自己チェックしていく。その際、拠点校あるいは所属校の指導教員にもチェックしてもらい、一緒に振り返りを行う。
- ④振り返りを通じて得られた成果と課題を、次年度の教育実践や今後の自身の成長につなげる。

以上のように、「授業力スタンダード・ルーブリック」の利用を通して初任者の自己評価による自己省察を促進することを想定している。

3. 「初任者研修マップ」の概要

さらに、上述したスタンダード・ルーブリックの各領域と広島県教育委員会教職員課・広島県立教育センター・各教育事務所(支所)が実施主体となって行っている研修内容との関連を示した初任者研修マップも作成した(図5)。もちろん、1つの研修で1つの領域を対象にしているわけ

はなく、研修内容と各領域は相互に関連し合っている。したがって、特に関連の強いと考えられる研修内容と領域との関連を示すことにより、初任者が本研修マップを参照し、受講する研修内容が授業力のどの領域と関連が深いのか受講前に確認することで自身の課題の明確化や意欲の喚起に活用できると考えている。

IV 指導教員用ハンドブック

初任者の資質能力向上にとって指導教員の役割が大きい。その指導教員が初任者の指導を行うにあたって有用な「初任者支援ハンドブック」も開発した(図6)。

本ハンドブックには、先述の授業力を構成する8つの領域ごとに、初任者の授業力を向上させる上での指導・助言のポイント等を記載している。

具体的には、各領域に係わる目的や内容などの初任者に伝えるべき基礎的・基本的な事項だけではなく、それらを初任者に助言する際のポイントや留意点が記されている。さらに、大学教員や先輩指導教員からの「ひと言アドバイス」やおすすめの本・資料の情報も含まれている(図7)。

例えば、「A 学習規律」の項目では、「教師の姿勢」の在り方や、「意識化・焦点化・評価」への配慮の重要性を、助言のポイントとして挙げている。また、「先輩指導教員からのひと言」では、年度初

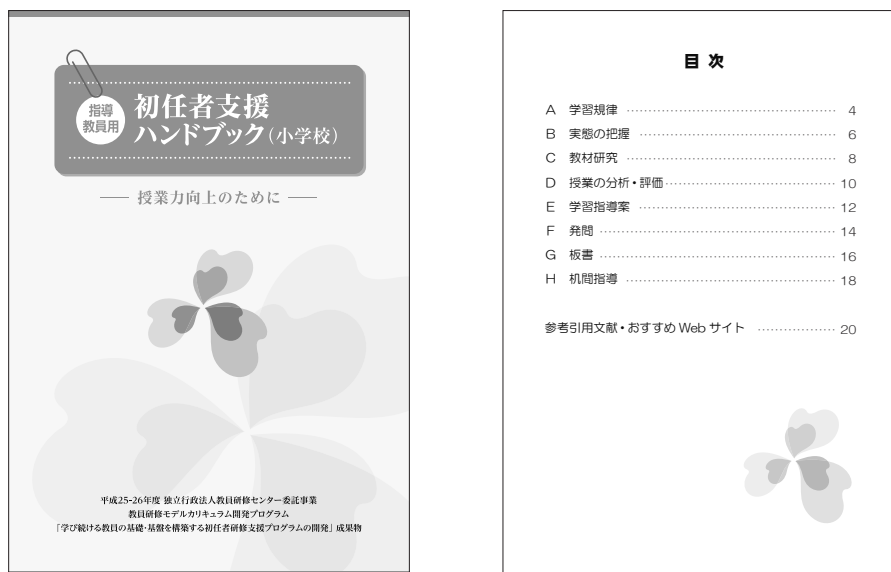


図6 初任者支援ハンドブック①

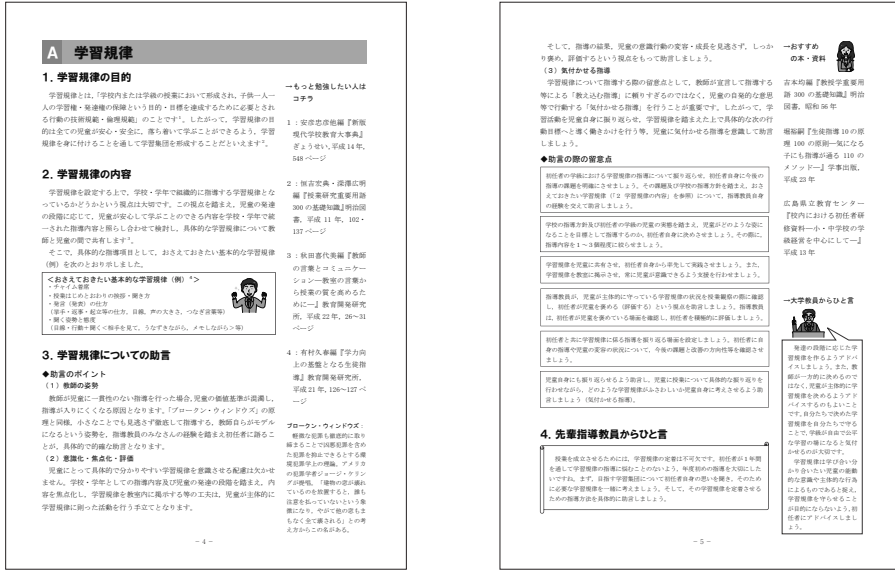


図7 初任者支援ハンドブック②

めの指導の重要性や、目指す学習集団についての初任者の思いを聞き出すことが提案されている。

このハンドブックを活用することで、初任者所属校や指導教員が効果的な校内研修（初任者への指導・支援）を実施することができると考えている。さらに、初任者用「実践的指導力向上ハンドブック」と併用することで、校外研修と校内研修を接続し、初任者の成長を促すことを目指している。

なお、この指導教員用ハンドブックは、平成27年度より拠点校指導教員や初任者所属校内の指導教員に配付し、その有用性や活用方法を考察中である。

V モニタリング調査

以上、2つのハンドブックや「授業力スタンダード・ルーブリック」を持続可能なツールとして運用するためには、その内容改善および効果的な活用方法の考察が不可欠である。すでに、初任者用「実践的指導力向上ハンドブック」は、平成26年度の初任者研修にて配付・運用し、初任者用「実践的指導力向上ハンドブック」を利用した感想について自由記述形式でアンケート調査を実施した。そこでは、「実践的指導力向上ハンドブック」の利用を通じて、各学期始め自身の授業力向上を目指した目標を書き、その学期末にはそれについて振り返ることができるようになったなどの肯定的な評価を得てきた。

それを踏まえて指導教員用「初任者支援ハンドブック」も含めたこれらツールの内容改善及び効果的な活用方法に関するより具体的な情報を得るために、平成27年度より初任者と指導教員を対象として、モニタリング調査を実施している。以下では、第1回のモニタリングの調査の結果について報告する。

1. モニタリング調査概要

(1) 実施時期

調査は2015年8月に1回目を実施した（2回目は2016年2月に実施予定である）。

(2) 調査協力者

調査協力者は、平成27年度の初任者研修受講者（初任者）3名、および指導教員3名である。その内訳と組み合わせは以下の通りである。

- ①複数回指導教員等を経験した（経験回数4回）
拠点校指導教員A×初任者A
- ②初めて指導教員を経験した拠点校指導教員B×初任者B
- ③初めて指導教員を経験した指導教員C×初任者C

なお、初めて指導教員を経験する者とこれまで複数回指導教員を経験している者とを意図的に選定している。それは、指導教員の経験の有無によるハンドブックの使用方法や効果に差異が見られるかどうかを考察したいと考えたからである。

(3) 実施方法

調査者2名が各学校を訪問し、上記3組計6名の協力者にインタビューを実施した。具体的には、調査者2名が各ペアに対して、約40分程度のインタビューを実施し、ICレコーダーで録音した。

なお、初任者と校内指導教員については、同じ勤務校とし、それぞれ同日に実施した。

2. 調査項目

調査では、以下の調査項目についてインタビューを実施した。

(1) 初任者に対するインタビュー項目

- ・初任者用実践的指導力向上ハンドブックをどのように利用したのか
- ・初任者用実践的指導力向上ハンドブックを利用したことによる効果
- ・指導教員との振り返りの際に、授業力スタンダード・ルーブリックをどのように利用したのか
- ・指導教員との振り返りの際に、授業力スタンダード・ルーブリックを利用したことによる効果

(2) 指導教員に対するインタビュー項目

- ・初任者支援ハンドブックをどのように利用したのか
- ・初任者支援ハンドブックを利用したことによる効果
- ・初任者を指導する際に、授業力スタンダード・ルーブリックをどのように利用したのか
- ・初任者を指導する際に、授業力スタンダード・ルーブリックを利用したことによる効果

3. モニタリング調査の結果と考察

分析の手続きについて述べる。インタビューを録音したものを文字に起こし、そのデータについて共同研究者間で分析を行った。分析に際しては、上記の調査項目の視点にかかわる内容を抽出するように心がけた。さらにハンドブックの内容改善や効果的な運用方法につながるような手がかりを抽出するように努めながら分析を行った。

(1) 初任者用実践的指導力向上ハンドブックについて

実践的指導力向上ハンドブックについては、初任者から以下のようなコメントが見られた¹。

《一般研修や教育センターなどでの研修の資料を綴じるのに使っています。》(初任者A)

《私はちょっと整理整頓が苦手なので、資料をここに綴じるだけでたまっていくので、それはちゃんと後で見たときにこういう研修をしたんだなというのがわかりやすくなるので、私としてはとてもありがたいです。》(初任者B)

《初任研の中でもらった資料とかを順々にとじていくことで、「ここ、どうだったかな」というところを即座に振り返って見ることもできますし、その中で自分がとったメモとかも全部綴じているので、そういった点で、もう1回振り返りに使ったりとかいうようなところで、すごく活用をしています。》(初任者C)

これらのコメントから、本研究で開発したハンドブックが、初任者研修の資料の整理と学びの蓄積に役立っていると考えられる。

(2) 指導教員用初任者支援ハンドブックについて

初任者支援ハンドブックについては、指導教員から以下のようなコメントが見られた。

《全体を読んで、左側は一般研修のときに使えるなど思いました。》(拠点校指導教員A)

《中身が丁寧に書いてあって、私が読んでもすごく勉強させてもらえる中身になっているなど思いました。》(校内指導教員C)

これらのコメントから、ハンドブックに記載された内容が指導教員に初任者を指導・助言する上での有用な知識を提供していると考えられる。

《「自分の思っていることと同じようなことが書かれてあるな」というところが、授業を見て気になるところをずっと、なかなか体系的な指導はできていなかったんで、初めてなんで。(中略)これを見ていくと、ここがゴールイメージなのかなと。ここを目指していけばいいんだなと》(拠点校指導教員B)

《すごく丁寧に書いてあって、どういうふうなことを具体的にしていっていいのかなという具体的なところがたくさんあって、「ああ、な

るほどな」ということを感じさせていただきました。》(校内指導教員 C)

指導教員 B と校内指導教員 C の二人は今回初めて初任者の指導教員を務めている。そのため、指導・助言について何をどのようにしてよいのか分からない等の不安を抱えていた。これらのコメントから、ハンドブックが、初めて指導教員をする彼らにとって指導・助言をする方向性を示すヒントとなり、不安を解消する一助となっていることが読み取れる。

《自分が行っていることが書いてあったり、それから同じようなことが書いてあったりということもありましたので、とても、「このように指導したのはよかったんだな」と。私も4年目なので、「今までしていたことはよかったんだな」と思ったり(略)》(拠点校指導教員 A)

拠点校指導教員 A は、今回唯一複数回指導教員の経験を持つ者であった。本ハンドブックの活用を通じて、拠点校指導教員 A は指導教員としてのこれまでの経験を振り返っている。それによって自身の行ってきた初任者への指導・助言の裏付けと今後の指導・支援の駆動力となる自信を得ていることが指摘できるコメントである。

(3) 授業力スタンダード・ルーブリックについて
授業力スタンダード・ルーブリックについて、初任者からは次のようなコメントが得られた。

《スタンダード・ルーブリックを見て、今、自分の中でどの段階に自分がいるかなというのをまず確認しつつ、この全体を見ることで、最終的に第3段階ではここまでたどり着くことができるような、自分の中で振り返りとか》(初任者 C)

《成長を実感した。成長を実感したというよりは、「私は、何かまだこれできてないんだな」という現状把握みたいな》(初任者 B)

これらのコメントから、スタンダード・ルーブリックにより初任者の自己評価による自己省察の促進に寄与したということが窺える。

《ほかの先生方の授業参観をする中で、これを視点にして見れば3段階目にたどり着くことができるのかなという部分を感じながら、校内研修で使ったりとか》(初任者 C)

スタンダード・ルーブリックを自己評価に活用するだけでなく、示範授業等での授業観察や分析の指標として応用している。このことは、スタンダード・ルーブリックが初任者の授業力を向上させるツールとなる可能性を示唆している。

《これをもとに指導教員の先生と一緒に話をして、具体的にはこういうことじゃないかなみたいなのを教えてもらったりすることで、2学期はもっと子供たちの思考が含まれるような切りかえしをしたりとか、授業力が上がったとか、学習規律がちゃんと整ったりとか、先生と一緒に共通して子供たちにつけたい力がつけさせられるような先生になりたいなと思います。》(初任者 B)

さらに、指導教員からも次のようなコメントが得られた。

《この A から H の中身について、まず初任者のほうが自分はどこら辺まで行っているよというところで考えながらチェックをしてもらっています。チェックをしてもらいますが、じゃあ、そこで私がここまで来ているかなというところをチェックをして。(中略)しっかりと、どのレベルというところのすり合わせも、そういうところで話がしていけるなというふうに感じたところですよ。》(指導教員 C)

これらのコメントから、スタンダード・ルーブリックを媒介として初任者と指導教員と一緒に初任者の授業力の到達状況について確認し、効果的な振り返りに役立っていることが窺知される。それは初任者にとっては今後の自身の成長した姿をイメージする手助けとなっており、指導教員にとっては、課題や成長目標を初任者とすり合わせ共有する手がかりとなっていると推察される。

しかし一方では、以下のように、各段階で示している内容が抽象的すぎるとの指摘もあった。

《「学習規律を具体化させ、児童に共有させることができる」というところ、「何を書いているのかな」というところもあります》(拠点校指導教員B)

VI まとめ

本稿では、開発した初任者用「実践的指導力向上ハンドブック」及び指導教員用「初任者支援ハンドブック」の内容や活用による成果について報告した。さらにモニタリング調査を通じて使用者の声を分析することで、各ハンドブックの効果的な使用方法を確立するための基礎的知見を得ることを目的とした。以下では得られた知見を要約しまとめたい。

- ①モニタリング調査の結果を踏まえると、実践的指導力向上ハンドブックは初任者研修の資料の整理と学びの蓄積に役立っている。その一方で、配布してから数か月であったこともあり、振り返りの促進に寄与しているとは言い難い。そこで、ハンドブックを活用した振り返りを促す方法について検討する必要がある。
- ②初任者支援ハンドブックは、初任者を指導・助言する上での有用な知識を提供するだけでなく、指導教員としてのこれまでの経験の裏付けとなったり、初めて指導教員を経験する者の不安を解消する一助となったりする可能性がある。
- ③スタンダード・ループリックについては、初任者の自己評価による自己省察を促すツールとなるだけでなく、授業観察や分析の指標とも成り得る。さらに、指導教員と初任者をつなぐ媒介として機能している。一方で、各段階で示されている内容の具体性について検討する余地があることが示唆された。

今後の展開として、平成28年2月に初任者・指導教員を対象としたアンケート調査及び初任者・指導教員を対象とした2回目のモニタリング調査の実施を予定している。今回の調査結果も踏まえて、実践的指導力向上ハンドブック・初任者支援ハンドブックの効果的な活用方法の確立を目指していきたい。

注

- 1 《 》内の記述は調査協力者のコメントであ

る。一部省略している箇所がある場合には(略)や(中略)と記している。

引用・参考文献

- 千葉大学(2014). 初任者・ミドルリーダー支援による循環型・発展型プログラム(リンクプログラム)の開発(独)教員研修センター委嘱「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」報告書(http://www.nctd.go.jp/lecture/model/PDF/itaku/h25/h25_di10.pdf 2015年12月1日閲覧)。
- 広島大学(2013). 大学と教育委員会による新たな連携・協働型初任者研修プログラムのモデル開発に関する研究 平成24年度文部科学省委託事業「教員の資質能力向上に係わる調査検討事業」成果報告書。
- 広島大学(2015). 学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発—教育委員会・学校・大学で初任者を支えることを目指して—平成25-26年度独立行政法人教員研修センター委嘱事業「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」成果報告書。
- 広島県教育委員会(2013). 平成25年度教職員研修 人材育成の基本方針。
- 高知県教育センター(2014a). 高知県の教員スタンダード(http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/files/2014030500025/2014030500025_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_life_103410_392240_misc.pdf 2015年12月1日閲覧)。
- 高知県教育センター(2014b). 教員の資質能力向上に係わる先導的取組支援事業報告書(http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310308/files/2014030500025/2014030500025_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_life_103410_392261_misc.pdf 2015年12月1日閲覧)。
- 文部科学省中央教育審議会(2012). 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)。
- 信州大学(2014). 教師としてのキャリアデザイン設計を意識した課題探求型初任者研修プログラム(独)教員研修センター委嘱「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」報告書(<http://www.nctd.go.jp/lecture/model/>

PDF/itaku/h25/h25_di11.pdf 2015年12月1日閲覧).

和歌山大学 (2014). 3つのコラボによる初任者研修支援プログラムの開発 (独) 教員研修センター委嘱「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」報告書 (http://www.nctd.go.jp/lecture/model/PDF/itaku/h25/h25_di12.pdf 2015年12月1日閲覧).

米沢崇・幸坂健太郎・竹谷浩子・鈴木由美子・井上弥・伊藤圭子・山崎敬人・中村和世・永田忠道 (2015). 学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発—教育委員会・学校・大学で初任者を支える

ことを目指して— 日本教育大学協会研究年報, **33**, 189-200.

付 記

本研究は、平成25-26年度独立行政法人教員研修センター委嘱事業「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の成果の一部であり、委嘱事業終了後の平成27年度も継続して取り組んでいる。なお、本稿は広島大学 (2015) の一部を加筆・修正するとともに、平成27年度日本教育大学協会研究集会 (10月10日開催) で発表した内容を加え執筆したものである。